

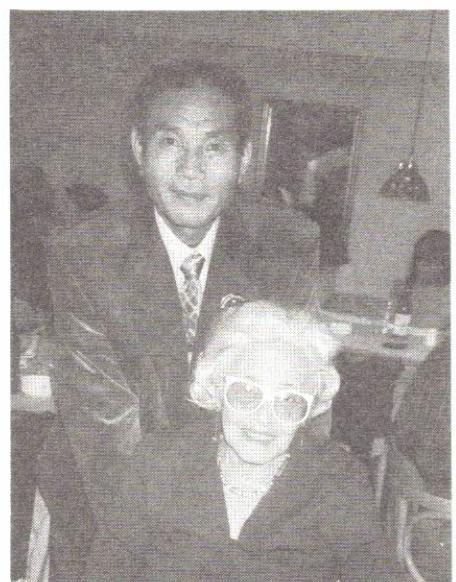
会報 (第14号)

目 次

特集：エビータ (上)	2
(故エバ・ペロン大統領夫人)	
1998年の日ア修好100周年を	
迎えるにあたって.....	5
メネム大統領法令第739号	
アルゼンチン政治・経済速報.....	6
政治・経済	
日ア経済関係	
ハドソン博物館を訪ねて.....	10
現地だより.....	11
RAE	
ブエノスアリスでの邦人タンゲーロ	
タンゴ界近況	
文化行事のお知らせ.....	12
アルゼンチンの大恐竜展	
タンゴ演奏会	
お知らせ.....	15
人事往来.....	16



コンパニエロ！バルコニーのエビータ P. 2



ハドソン シンヤ女史と佐藤教授 P. 10

特集：エビータ（上）

私生児、貧困からはい上がってファースト・レディになり、33歳で癌のため急逝した女性。しかし歴史に残したその足跡は小さくない。労働者の地位向上、婦人参政権の実現、積極的な貧民救済運動により、アルゼンチン初の構造改革が進められた。

戦後、廃墟の日本へ他国に先がけて、大量の食糧を貨物船で送ってくれたのは『エバ・ペロン財団』であった。

いま、アルゼンチンではエバ・ペロンが再評価されているという。

東京では10年ぶりに、ミュージカル「エビータ」が再演される。この物語に沿って彼女の波乱に満ちた一生を振り返ってみたい。

《第一幕》 ブエノスアイレスー1952（昭27）年7月26日

コリエンテス通りの映画館は、その日もほぼ満員の客で埋まっていた。突然、映画が中断されて重苦しいアナウンスが流れた。

「情報省より皆さんに悲しいお知らせをします。本日、20時25分、わが国の精神的リーダーであるエバ・ペロンが永遠の眠りにつきました」

國中が狂おしいばかりの悲嘆にくれ、いたるところに半旗が掲げられた。あらゆる業務が3日間停止され、首都は完全に麻痺状態になった。大衆がエビータに祈りを捧げている様子を「狂言廻し役」として登場したチェ・ゲバラが、冷ややかに眺めていた。

♪ゲバラ 何たるサーカス、何たるショウ！
アルゼンチンは狂いだした
エビータが何をしたというのか
1945年10月17日からの
ショウが終わっただけだ

銀で縁どりされた白いマホガニーの棺は、エビータが6年にわたりペロン政権の大黒柱として権力を欲しいままにしていた労働省に運ばれた。花で埋めつくされたホールにアルゼンチン各地から2週間に200万人以上の人々が列をつくり、混雑で16人が圧死、4千人以上が負傷した。8月9日、遺体は現職大統領の葬儀に匹敵する最大の軍葬をうけ、ショパンの葬送行進曲で国会議事堂に運ばれた。次の日、小さな棺は50人の上着なし（デスカミサード）の労働者によって、港に近い労働総同盟（CGT）本部に移された。2マイルの目抜き通りを進む車輪の前には花や花びらを撒き、葬列が通る街路に面したビルの無数の窓から、雨のように多くの花が降りそそがれた。

群衆による鎮魂の合唱は続き、葬儀の列にいた少女は死せるエビータの声で高らかに歌った。

♪少女 アルゼンチンよ、私のために泣かないで
私は、ただ普通の女性
貴方たちの嘆きと祈りは
エバのためになく、アルゼンチンのために
私の栄光と亡骸（なきがら）は
仲間たちと分かち合うために

フニン～ブエノスアイレスー 1934（昭9）年

街にやってきたタンゴ歌手、アウグスティン・マガルディ。エビータは楽屋に忍び込み彼にとりいだ。

♪マガルディ 星降る今宵
この愛の唄は あなたを
天国のドアへ誘っていく
エビータ うれしいわ あなたと恋をするなんて
あたしは行きたい 夢なの
ブエノスアイレスへ 一緒に

首都にやってきたエビータはまだ15歳、ひたすら女優になろうと画策した。マガルディと別れ、つぎつぎと男を踏み台にして駆け上がり、明日の政権を狙う陸軍青年将校達に狙いを定めた。1943年、青年将校団G.O.U.が権力を握りペロンがリーダーになった。

♪将校たち いちおう ルールはあるが
ライバルを けおとして
みごと生き残る
これぞ 政治
可能性の芸術さ
群衆 ペロン、ペロン、ペロン

震災義援バラエティ・ショウ、ルナ・パークー 1944（昭19）年1月22日

1月15日、サン・フワンは地震で壊滅、死者数千人にのぼった。エビータは恋人である通信大臣インベルト大佐を説得して、募金のためスター総出演のバラエティ・ショウを開催させた。美しい女優、リベルタ・ラマルケと話しているペロンをみつけた

エビータは、ラマルケがマイクに向かっている隙間にペロンの隣の座席にすべりこんだ。二人は会場をぬけ出し、車でティグレの別荘に向かった。

♪エビータ お目にかかるってすぐに
こんなことを言うなんて
打算でも何でもなく
でも わかつてくださるわね
私はあなたの役にたつ女なの
あなたは僕を虜（とりこ）にした
よくわかります
僕もあなたの役に立とう

ペロン

数日後、エビータはペロンのアパートへ押しかけて行き、彼のティンエイジャーの情婦を追い出し、副大統領になったペロンを自分のアパートの隣の部屋に引っ越しさせた。二人は国中を廻って労働者たちと対話を続け、すべての労働者がペロン派の組合に参加した。上流階級の人々や軍の一部はペロンとエビータの過激な行動に強く反発した。弱気になったペロンをエビータはどやしつけ、気をとり直して男らしく振る舞えといった。

しかし海軍士官を従えた警察庁長官はペロンをマルティン・ガルシア島の海軍刑務所に連行した。一人になったエビータは労組関係の知り合いに電話をかけまくった。

やがて全国から労働者や一般大衆が、カサ・ロサーダ（大統領府）にむけて集結し始めた。労働総同盟はゼネストを宣言し、ブエノスアイレスは麻痺状態になった。マヨ広場に集まった群衆は数万人、「ペロン、ペロン」の大合唱は夜になっても轟き続けた。

♪大衆 ニュー アルゼンチーナ
解き放たれる
人民の声 今高らかに

カサ・ロサーダー 1945（昭20）年10月17日

解放されたペロンはカサ・ロサーダのバルコニーに現れ、大衆の沸き上がる歓呼に応えて「私は軍籍を離れ、わがデスカミサードの一員として、諸君を心から抱きしめよう」と両腕をさしのべた。エビータはバルコニーの後の居間で微笑みを一杯うかべて眺めていた。

その翌朝、ペロンとエビータは正式に結婚した。（第一幕おわり）

劇団四季のミュージカル「エビータ」は、12月7日から日生劇場で。詳細はP. 14

映画「エビータ」

既報（第12号）マドンナ主演の映画をブエノスアイレスで撮影することに、アルゼンチン大衆が猛烈な反対をしているとの現地報道をお伝えしたが、その後の状況についてアルゼンチン三菱商事豊田社長よりつきの情報がよせられた。

- ① ハイライト・シーンであるエビータのカサ・ロサーダ（大統領府）のバルコニーからの演説は結局、実物のカサ・ロサーダでの撮影が許可され、土曜日の深夜実施された。
- ② さらにメネム大統領はマドンナほかロケ隊一行を、オリーボスの官邸に招待しエビータの資料などを披露しながら慰労した。

この映画のアメリカでのロードショウは、来る12月の予定。

1998年の日ア修好100周年を迎えるにあたって

◎再来年、1998年（平成10年）は、日本とアルゼンチンが修好通商航海条約を結んで100年を迎えます。

アルゼンチン政府はさる7月、つぎのような法令（在日アルゼンチン共和国大使館提供）を公布し100周年記念国家委員会を設立し、なみなみならぬ熱意を示しています。

わが国も非公式ながら、外務省（中南米一課）と日本アルゼンチン協会が記念行事プランの検討に着手しています。

1988年の日ア修好100周年記念国家委員会設立に関する法令第739号（仮訳）

1998年2月3日で、日ア修好通商航海条約締結から100年になるにあたり（同条約は1961年に全面改訂）、又下記諸点を鑑み、

- ・両国の関係は政治・文化・経済面において極めて良好である。
- ・日本からの移民、及びその子孫はアルゼンチンの社会に完全に、また有益な形で溶け込み、豊かで貴重な貢献をしている。
- ・従って、特にこの百周年を記念し、日本とアルゼンチン共和国の友情と協力の証となる諸行事を行う。
- ・日本政府も同じ目的のために行事を準備しており、官界、実業界、文化界各関係者が参加する予定である。
- ・その為には、両国間に存在する素晴らしい関係を広め促進すべく、日本とアルゼンチン両国での諸行事を計画し、調整する記念委員会の設立が必要である。
- ・この法令はアルゼンチン憲法第99条1項で定めた（大統領の）権限の行使に基づく。

アルゼンチン大統領は下記の通り法令を定める。

第1条：日本との修好百年国家委員会 (Comision Nacional del Centenario de Amistad con Japón) を設立し、日本、アルゼンチンで開催される諸行事の計画、調整を行う。同委員会の目的は、政治、経済、文化、社会の分野において、両国間に存在する素晴らしい関係を広め、促進することである。

第2条：同委員会の名誉会長はアルゼンチン大統領とする。

第3条：外務大臣、経済大臣をオリジナル・メンバー兼名誉会員とし、上院・下院議長、最高裁長官は、同委員会の名誉会員とする。

第4条：同委員会のオリジナル・メンバーは、日本と繋がりのある行政府、政界、実業界、学会、公共団体各関係者に、同委員会の名誉会員となるよう要請する。

第5条：外務大臣に日本との修好百年国家委員会の運営及び調整を任命する。

第6条：この件を遂行する際に必要な経費は、外務省の予算費目として処理する。

第7条：通報し、公表し、公文書保管部 (Direccion Nacional del Registro Oficial) に回し、ファイルすること。

法令第739号 ブエノス・アイレス 1996年7月8日

アルゼンチン政治・経済速報

◎政治・経済

東銀リサーチインターナショナル

研究理事 小林晋一郎

○政府は7月26日、カバロ経済大臣の解任を発表した。カバロ経済大臣はかねてから経済政策をめぐり閣僚との確執、与党内での孤立などが見られたが、銀行員社会保障機関 (ISSB) に関しメネム大統領との感情的対立を直接の契機として辞任を余儀なくされた。新経済大臣にはシカゴ大学留学の経歴のある中銀総裁のフェルナンデスが任命された。大統領及びフェルナンデス大臣は経済政策なかんずく兌換法の継続を内外に向け表明したため、市場では株式、債券が一時的に値を下げたが直に回復した。カバロ経済大臣は91年1月に大臣に就任、経済安定に大きく貢献し、メネム再選を可能にした。カバロはエクアドルのブカラム大統領の顧問に就任した。

○メキシコ通貨危機の波及を受けアルゼンチンの金融界が流動性危機に見舞われた経験から、経済大臣交代にともない万一の流動性不足に対処するため、中銀は外銀から信用枠を確保することとした。チーズ、シティー等13行から合計63億ドルのオファーを受け中銀は30億ドルで枠を設定した。

○ IMFに対する本年度の財政赤字目標は25億ドルであるところ、上半期で既に25億ドルの赤字であり税収の落ち込みから通年では66億ドルに達するであろうとフェルナンデス大臣が国会で明らかにした。

財政改善策として輸出補助金の削減、付加価値税非課税対象の削減、燃料税の引き上げ、ガソリン税の引き上げ等が必要なることを明らかにした。

○政府は8月12日、財政赤字削減のための税制改革案を発表した。主要な改正点は次の通り。①軽油に対する課税と燃料税の引き上げ、②付加価値税の適用対象外（ケーブルテレビ加入料金、劇場入場料金、私立教育機関の授業料、私的医療保険掛け金等）の削減による10.5%の課税、③源泉徴収税の5%から12%への引き上げ、④資本財輸入関税の引き上げ、⑤メルコスル域外への輸出に係る輸出補助金の交付率の引き下げ、⑥メルコスル域内への輸出に係る輸出補助金の廃止、⑦法人税・個人所得税の引き上げ、⑧有限会社の法人税率の引き上げ。

財政改革法案は一部修正の上9月、上下院で可決された。

○財政改革法の成立により本年度の財政赤字見込みは当初の66億ドルから50億ドルに圧縮される。財政赤字目標を25億ドルから60億ドルに修正すべく政府はIMFと交渉を行っており承認される見通しである。IMFのカムデス総裁は9月上旬、アルゼンチンを訪問し新経済大臣の政策を支持すると語った。また、財政資金補填のため、政府の起債等による資金調達枠の増額40億ドルが財政改革法で認められた。

○労働総同盟(CGT)の呼びかけによる経済政策に反対するゼネストが8月8日、行われた。これに続き、政府が進めようとしている労働法改正に反対し9月26日から36時間のゼネストが行われた。このゼネストにはCGT以外の労働組合団体に加え野党の急進党、フレパソ党も参加した。メネム政権下で最大のストであったが政府は労働法改正については議論の余地はないと、強硬姿勢を崩していない。

また、急進党、フレパソ党の呼びかけで経済政策に抗議して9月12日夜8時から5分間、一斉消灯が行われた。

○民間調査期間によればメネム大統領への支持率は高い失業率(17.1%)、厳しい経済政策を背景に本年8月には19%まで下落した。

94年5月以降の支持率の推移は次の通り。42%(94年5月)、42%(94年9月)、47%(95年5月)、31%(95年9月)、23%(96年4月)。また、現在の社会問題に対処する政府の能力については、「ある」17%、「ない」80%という回答である。家計の状況は「月を越すのがやっと」58%、「借金によりしのいでいる」21%、「貯蓄を崩してしのいでいる」12%である。

○メネム大統領は8月、マレーシア、インドネシアを訪問した。約80人の財界人が同行した。財政改革法の国会審議が遅れていることから、一日繰り上げて帰国した。

○97年度予算案が国会に提出された。予算総額は448億ペソ、赤字は38億ペソとなる見込み。また、予算案策定の前提条件は次の通りである。

経済成長率5%、消費者物価上昇率2%、輸出275億ドル、輸入294億ドル。

○スペインのビルバオ・ビスカヤ銀行が110年の歴史を持つアルゼンチンの大手地場銀行フランセス銀行の株式30%を3億5千万ドルで取得することで合意したと発表された。同行は総資産38億ドル、国内に93支店を持つ。

◎日ア経済関係

大来財団日本評議会委員会事務局長
斎木茂治

○JICA ア国第2次経済開発調査（通称：大来財団II調査）

8月21日（財）国際開発センターは会員企業や調査関係者を対象に「アルゼンチン経済の飛躍と魅力ある資源加工型産業」と題し、本調査の報告会を開催、約40名が出席した。第1部「アルゼンチン経済の飛躍」を東銀リサーチインターナショナル・小林研究理事、第2部「魅力あるアルゼンチンの資源加工型産業」を日本興業銀行・建部経営問題研究室長並びに渡辺同センター研究員がそれぞれ説明、第2部では牛肉、果実ジュース、トマト製品、イカ製品につき生産性、品質並びに日本をはじめとする東アジア市場アクセス問題を中心に会員企業の実務上参考となる事項が多く好評であった。

○大来財団の活動

ア国国立銀行重役ビルヒリオ・テデイン・ウリブル氏（メネム大統領のアセアン歴訪に同行した）が帰途日本に立ち寄り、日本政府（大蔵省・日本輸出入銀行）や商社との打ち合わせに加え、ア国大来財団理事として同財団日本評議委員会事務局やJAIDO（日本国際協力機構）との打ち合わせを行ったが、特に本財団内に同氏を中心と/or>設立されたプロジェクトチームがフォローしているア国でのJAIDO案件の第1号となる食品加工プラント建設が近々実現の見通しとなった。

◎韓国官民で中南米市場拡大を目指し大攻勢

韓国の金泳三大統領は9月3日から14日にかけアルゼンチン、ブラジル、チリ、ペルー等の中南米諸国を歴訪した。今回の歴訪は経済事情が安定に向かう中南米市場の成長性に注目すると共にアジアの工業化に伴って需要の増加が予想される鉄鉱石等の天然資源の安定確保を狙ったもの。財閥トップを含め42人の経済人が同行、各地で現地企業との商談や大型投資を発表しトップセールス外交を展開した。

大統領は「韓国経済にとって、中南米をフロンティアと位置付け、2000年までに貿易額200億ドル、数年内に投資100億ドルを達成し、この地域で日本を追い越せる立場になるだろう」と語った。

アルゼンチンでは9月9日、第5回韓ア経済合同委員会を開催、韓国側はア国の大手・農産加工・漁業・インフラに対する投資並びにア国産原材料約10億ドル相当の輸入を約した。さらに、ア国アルンプレラ鉱山が産出する銅・金濃縮鉱石を年間10万トン10年間の長期輸入（総額約8億ドル）の契約締結も報じられている。ア国カーギル社はトウモロコシ53,000トン（約8.6百万ドル）の輸出契約を行い、「韓国はトウモロコシ年間85万トン輸入しており、今回の契約は韓国市場へのア国産トウモロコシ拡販の橋頭堡となる」と期待を述べた。

さて、日本は8月末に橋本首相が（アルゼンチンを除く）同地域を歴訪したが経済人は同行せず、経済界の同地域へ向ける眼もアジア・北米市場一辺倒から相変わらず大きな変化は見られない。昨今の世界的な資源の枯渇と環境破壊が顕著な状況下、世界での残された数少ない資源大国が集まった同地域を見直すタイミングを逸すると、金大統領の「数年内に同地域で日本に追い付き追い越す」とのセリフが現実となることを恐れるのは筆者の杞憂であればよいが…

事務局からのお願い

「個人会員および個人賛助会員」募集

当協会の構成員は「法人」を主体としていますが、このほか「個人正会員」（議決権有り）の制度があり、現在30数人がメンバーに登録されています。さらに文化活動への参加を主眼とした「個人賛助会員」制度（議決権なし）があり、広く当協会へのご支援をお願いしています。

☆正会員（定款上総会の構成員。議決権有り） 年会費 ¥ 10,000

☆賛助会員（定款上総会には非構成員。議決権なし。）

その他は原則として正会員に準ずる） 年会費 ¥ 5,000

「会報」を年4回お届け（無料）し、定例総会のほか「親睦会」を開催し会員相互および在京大使館との交流を計ります。（郵便局振込口座00120-6-581381）

ハドソン博物館を訪ねて

弘前学院大学教授 佐 藤 幸 正

ウィリアム・H・ハドソン（1841－1921）の作品に長年接し、それを論じてきたが、作品だけでは理解できないことが多い。そのためもあって、事情が許せば是非生地を訪れ、作者の描いた世界をこの眼で確かめたいと思っていた。この度、幸運にもその希望が実現する運びとなった。

8月のブエノス・アイレスは真冬とはいえ、日中は汗ばむほど温かく、何十年振りかの高温続きであった。8月20日、好天に恵まれ、朝9時30分ホテルを出発し、ハドソン博物館へ向かう。途中でヴィオレッタ・シンヤに同乗していただく。光栄なことに、彼女はこの日ハドソン博物館のみならず、ラ・プラタ博物館まで同行してくださることになっていたのである。彼女はハドソンの妹（メアリー）の孫娘に当たり、ハドソン家の血筋を引く。母ラウラはメアリーの一人娘で、父榛葉賛雄はアルゼンチンに正式に入国した最初の日本人であった。ヴィオレッタは長年博物館の初代館長として活躍したが、現在は退き隠居の身。今年8月10日で満86歳を迎えた。

元ハドソンの生家であった博物館は、首都から約40キロ程南方にある。博物館のあたりはさまざまな樹木が生え、鳥たちの絶好の生息地になっている。55ヘクタールからなる「ハドソン文化・環境保護園」は広大で、現在数種類の苗木が植えられ、その名にふさわしい環境造りが続けられている。

先ず2代目館長ルーベン・ラベラのオフィスを見学。ここには想像以上の本や雑誌が揃い、小図書館になっている。ハドソンの作品は勿論のこと、スペイン語訳やエスペラント語訳もある。ここで目に止まったのは大きな額縁入りの署名である。これは1941年8月4日（ハドソンの誕生日）に結成された「ハドソン協会」の発起人達の署名である。署名者たちの中には初代会長であり、翻訳者でもあったフェルナンド・ボソ、英国大使オーベイ、ハドソンの友人カサーレスなどが発見される。

外に出て博物館へ向かう。地上ではオルネーロ（セアカカマドリ）が遊び、辺りでは種々の野鳥が鳴きながら飛び交う。園内だけで134種もの野鳥が観察されたという。博物館に入ると、ハドソン縁の品々が陳列されている。入り口付近の遺言状は、研究上重要な意義をもつ。数冊の日本語訳が展示され、日本とハドソンの初期の関係を示している。この関係は戦後ますます深まり、館内の展示品にその名を留める津田正夫、藤本芳男、寿岳和子、長野士郎、サントリー世界愛鳥基金などは、一大功労者である。彼等は世界に先駆けて、ハドソン生家の修復を呼びかけて博物館を実現させたり、敷地に隣接する土地拡大に物心両面から援助の手を差しのべている。ヴィオレッタとルーベンの口から、彼等の名がしばしば漏れるのも当然のことなのだ。館内で日本人の名前を発見するたびごとに、夫々の果たした功績を思い出すのであった。去りがたい気持ちにかられていたが、促されて次の目的地へ向かった次第である。

現 地 だ よ り

◎アルゼンチン海外放送 (RAE)

Radiodifusion Argentina al Exterior については、既に会報第12号で紹介致しましたが、日本語番組は次の通り。

月曜日 今日の話題

火曜日 国内トピックス
リスナーのコーナー

(その他に当日のニュースとタンゴ及びフルクローレ等の音楽が加わります)

水曜日 文学に現われたアルゼンチンの伝統

木曜日 今日の話題

金曜日 特別番組（補充編）

RAEの周波数 11710KHZ、25メーターバンド、出力 50KW、日本時間 19:00~20:00 の1時間、アナウンサーは高木一臣と佐藤アイデ両名でお送りしています。

◎沖縄アルゼンチン協会の再発足

沖縄アルゼンチン協会の活性化のため、同趣旨に賛同する有志15名が7月29日に集まり総会準備委員会が開催された。正式発足は10月12日の予定。

会長 伊佐常重 〒901-23 沖縄県中頭郡北中城村屋宜原596

副会長 城間兵勝 (TEL 098-933-2835)

事務局長 松堂克

◎ブエノスアリスでの邦人タンゲーロ——ア国タンゴ界息吹き返す

今年は邦人のタンゲーロに縁のある年だ。先ず新年早々、タンゴ歌手の岩尾エンリケ氏がやって来たのと入れ違いにタンゴ・ダンスの「シンゴとアスカ」のコンビが訪れ、メネム大統領の前でタンゴを躍り大統領の目を白黒させて帰っていったかと思ったら、それから1カ月もたたないうちにタンゴ歌手の小原みなみさんが来て、これまた入れ違いに同じくタンゴ歌手の香坂優さんがブエノス・アイレスに艶やかな姿を現し、現在ポルテニョ達の人気をさらっているのに加えて、ここ数年来消息を絶っていたタンギートこと木田寿司氏が久しぶりにタンゴツアーを率いて来ブ、活発なタンゴ外交を展開するのと同じくして和製パジャドール又はガウチョハボネスとしてア国では知らぬものないフルクロリストの高野太郎氏が例のガウチョ姿で現われ日本ブームをいやが上にも煽っている。

日本からタンゲートがやって来ると、それまで沈滞していたブエノス・アイレスのタンゴ界が息を吹き返したように活気を帯び始めるのが常。テレビもラジオもタンゴバーも争って日本に因んだ番組を組んで日本からのタンゲーロ達を出演させている。

◎アルゼンチン・タンゴ界の三つの追悼演奏会

(1) 故エドムンド・リベロ

「最後の吟遊詩人」と呼ばれているタンゴの名歌手エドムンド・リベロが1986年になくなつてから今年で10年目に当たるところから、アルゼンチン・タンゴ界でラジオ、テレビなどを通じて追悼行事をおこなつた。

馬面（ウマズラ）で長身であるためキリンのように足を開き手を組合わせて歌う彼のスタイルはどうみてもカッコいいとは云えないものの、その渋みのある独特の歌い方で以て万人を魅了したものである。

彼が日本に感謝を表明して自ら作詞作曲したタンゴ曲「アリガト ニッポンアリガト」は有名である。

彼はまたア国を訪れる観光客達が一度は必ず行くタンゴ・バー「ビエホ・アルマセン」の持ち主でもある。彼の死後、息子が引き継いでやつていたが父のリベロ時代のようには振るわず閉鎖のやむなきに至つたが最近また再開された。

(2) 故ファン・ダリエンソ

その胸のすくような歯切れのよい演奏振りを以てリズムの王様あるいはタンゴのトスカニーニと呼ばれたマエストロ、ファン・ダリエンソが1976年に亡くなつてから20年になる。ダリエンソの飛行機嫌いは有名で、そのため日本での公演も断つた程である。

(3) 故アストル・ピアソラ

タンゴの革命児アストル・ピアソラは「私の曲は過去と無量である」と彼自身述べているように前衛的なものでタンゴ界やタンゴ・ファンの間にタンゴ論争を巻き起こしたことは有名である。

1992年71歳で逝去したピアソラは作曲家としての名声を決定的なものとした「アディオス ノニ ノニ」、「ベラーノ ポルテニョ」、「インビエルノ ポルテニョ」、「タンガータ」などピアソラのバンドネオンとその五重奏団の演奏が放映された。
(以上らぶらた報知紙より)

文化行事のお知らせ

◎アルゼンチンの大恐竜展

日 時：1996年10月22日（火）～1997年2月2日（日） 09:30～17:00
(休館・月曜日)

場 所：群馬県立自然史博物館

入場料：大人900円、大学、高校500円、中・小学生200円

連絡先：☎ 0274-60-1200

◎マルコス・シーメルマン写真展（風の領域－パタゴニア地方縦断）

日 時：11月1日（金）～12月20日（金） 11：00～19：00（日曜日休）
場 所：バーソウ・フォト・ギャラリー（渋谷区神宮前4-24-14）
交 通：地下鉄 表参道駅下車（出口A2、徒歩3分）
入場料：無料
連絡先：☎ 03-3478-4375

◎日本・ラテンアメリカ婦人会主催バザー

（1996年フェスティバル・ラティノアメリカーノ）

日 時：11月19日（火） 11：30～15：00
場 所：東京全日空ホテルB1、鳳（第1会場）、瑞雲（第2会場）
入場券：2,000円 抽選券付（抽選開始時刻13：30）
交 通：日比谷線 六本木駅3番出口より徒歩12分
千代田線 国会議事堂前駅 5番出口より徒歩8分
銀座線 虎ノ門駅3番出口より徒歩10分
連絡先：☎ 03-3413-2504（鈴木）、☎ 03-3359-2824（西崎）

◎タンゴのタベ（ドナート・ラシアッティ楽団）

日 時：11月20日（水） 16：30
場 所：京王プラザ・ホテル 4F 錦（JR・地下鉄 新宿駅下車）
(当協会会員に限り1割引で13,500円)
12月14日（土） 14：00
聖学院中・高校講堂（JR 駒込駅 東口出口 徒歩5分）
12月15日（日） 18：30
平河町 海運クラブ（半蔵門線 永田町駅下車 徒歩2分）
チケット連絡先：日亜教育文化促進会（TEL 3791-1519・FAX 3791-1699）
木田寿司（当協会会員）

◎シャンソン・コンサート（タンゴ歌と踊り）

日 時：11月5日（火） 18：00
場 所：文京区シビックホール
入場料：2,000円 共演：ジョルジュ高橋、清水百合

◎木月京子・サロンコンサート

日 時：11月22日（金） 18：10、19：40（入替制）

場 所：日比谷シャンテ

料 金：ケーキとお茶 2,500円

上記コンサート問い合わせ先：TEL 3408-8779・TEL、FAX 3393-3023

(清水百合 当協会員)

◎オスバルド・レケーナ&タンゴ・セッションズ

日 時：12月6日（金） 18：30

場 所：よみうりホール（有楽町そごう7F）

出演者：オスバルド・レケーナ五重奏団

：歌手 香坂 優

：ダンス・カップル ナターシャ&ファビアン

入場料：前売5,500円、当日売6,000円（当協会員4,950円、全指定席、税込）

主催及連絡先：(株)ラティーナ ☎ 03-3770-4411

本 田 健 治（当協会員）

◎ミュージカル「エビータ」（故ペロン大統領夫人エバ・ペロンものがたり）

日 時：1996年12月7日（土）～97年2月16日（日）

{13：00（14：00）、18：30（17：30）}

場 所：日生劇場（日比谷）

入場料：S席 10,000円、A席 8,000円、B席 5,000円、C席 3,000円（全席指定）

主 催：劇団四季

連絡先：☎ 045-903-1521 劇団四季 高橋大祐（当協会会員）

チケット予約：劇団四季予約センター ☎ 0120-489-444

◎タンゴ・イ・フォルクローレ（チャリティーコンサート）

日 時：平成9年1月28日（火） 19：00

場 所：神奈川県立音楽堂

入場料：S 5,500円（指定席）、A 4,500円（自由席）

後 援：アルゼンチン大使館、ペルー大使館、日本アルゼンチン協会

主 催：オフィス小原（小原みなみ 当協会員）

連絡先：☎ 045-716-2612、045-712-0066

お 知 ら せ

◎平成8年度当協会第1回臨時理事会開催

去る7月第1回臨時理事会（書類持ち回り）において、藤本芳男理事を副会長に選任する件で審議致しました処、理事全員（26人）のご賛同を得ましたので、9月1日付をもって副会長に就任しました事を会員皆様にご報告申し上げます。

◎アルゼンチン・ワイン（サン・フェリペ）の特価頒布

当協会会員に限り特価（消費税込み 1本1,380円及び1,000円）で頒布しますので、下記へ直接お申し込み下さい。

12本（1ケース 750cc、赤、白） 16,560円（送料1,000円）

” （ ” 360cc、 ” ） 12,000円（ ” ” ）

（有）カンデラリア社（サン・フェリペ日本総代理店）

高野太郎（当協会員）

☎ 03-3582-4658（昼間）

☎ 03-3405-4344（夜間17：00以降）

◎わが国初のスペイン語テレビ放送開始

日本でもスペイン語とポルトガル語のテレビ放送が10月1日より開始された。

IPCテレビジョン・ネットワーク社が朝から晩まで、スペイン語による国内ニュースやアルゼンチン、ペルー、メキシコ、米国（マイアミ）等の番組より、現地のニュース、音楽、スポーツ、ドラマ、映画を放送する。チャンネルはデジタル放送パーフェクTVプレミアム系のチャンネル、スペイン語は334、ポルトガル語は333。

IPCは日本でポルトガルおよびスペイン語版の新聞を発行しており、今回テレビ放送も始めることになったもの。

詳細についてはIPCテレビジョン・ネットワーク社へ（東京都港区南麻布2-1-9 ☎ 03-5420-7800、㈹ 03-5420-5100）

◎タンゴ物語（4）は、紙面の都合で割愛させていただき、次号（15号）に掲載致しますのでご了承お願い申し上げます。

人 事 往 来

(平成8年7月～9月)

1. 来 日

ビルヒリオ・テディン・ウリプル アルゼンチン国立銀行重役

8月27日～9月4日

デビット・バスケス プエノス・アイレス 穀物取引所所長

9月24日～27日

2. 訪 ア

小 川 元 外務政務次官 7月10日～12日

小 倉 和 夫 外務審議官 9月26日～29日

3. 着 任

ショウハン・サクガワ アルゼンチン国立銀行日本駐在事務所代表 8月20日

(在ア東京銀行、日本大使館経済部勤務後、大蔵長官顧問、経済省投資局顧問
を歴任)

あ と が き

次号（第15号）は1月下旬発行予定です。

社団法人「日本アルゼンチン協会」個人会員申込書

(FAX (03 - 3595 - 3932) または郵便で)

ご希望の個人会員の種別に○印をつけて下さい	ご 住 所	ご 氏 名 ㊞	連絡電話
正 会 員 贊 助 会 員	〒		
備 考 欄			